

茨木市立三島小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤読むこと | 概ね良好な結果であった |

（問題形式）

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

全国より①正答率がもっとも高かった設問：学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。②もっとも正答率が低かった設問：目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題（記述式）。③もっとも無解答率の高かった設問：日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題。

分析

- ・問題が後半になるにつれて無解答率が高くなっている。これは普段の授業では複数のページにまたがった問題形式に触れていないことが一因だと考えられる。問題形式に慣れつつも主体的な学びに必要とされる非認知能力「ねばり強さ」の育成が課題である。
- ・「ある人物になりきって」記述する問題では、全国平均よりも下回る結果となっている。複数の資料や条件を重ねて考えることに課題があり、普段の生活の中で、国語科で学習したことを生かすことができるように、教材で学んだことを活用できるような言語活動を意図して設定していく必要がある。
- ・生活科、社会科、総合など社会と密接にかかわった問題を学ぶ際に、授業者（教師）、学習者（児童）がともに国語で培った力を発揮できることを意識して学びを深めていく。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①数と計算	概ね良好な結果であった
②図形	概ね良好な結果であった
③変化と関係	概ね良好な結果であった
④データの活用	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かった設問は、設問1(1)の、伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかを問う問題。
最も正答率が低かった設問は、設問2(4)の、高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題。
無解答率は、全国平均をやや上回った。
最も無解答率が高い設問は、設問4(3)の、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。

分析

- ・全体としては、全国平均と比べ同くらいの領域が多く、概ね良好な結果であったと言える。
- ・前年度と比べ、記述式の無解答率に改善がみられる。全国平均と比べても、概ね良好な結果であったと言える。ねばり強く問題に取り組む姿勢が身についてきている。
- ・課題が見られたのは、設問2(4)の問題である。図形の意味や性質については理解している。また、与えられた簡単な情報からは、面積を求めることもできる。しかし、図形を構成する要素などに着目して、必要な情報を捉え、面積を求めることに課題がある。さまざまな情報から、課題解決に必要な情報を選び取り、活用する力を養う必要がある。
- ・国語と同様、無解答率が全体として全国平均を上回る結果となった。無解答率の高い設問を見ると、特に調査後半に集中しており、解答のための時間配分がうまくできなかったのではないかと推察される。普段の学習やテストから、時間を意識して取り組む意識を養っていきたい。
- ・また、単純な計算問題や文章問題だけに取り組むのではなく、日常生活に即した問題や、多くの情報から必要な情報を判断し、活用する問題に取り組む、思考力・判断力・表現力を養っていきたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平均正答率は例年に比べ若干低下したが、依然として全国平均とほぼ同様に推移している。これまでの取り組みが児童の力に繋がっていると考える。

無解答率は、全体として算数、国語共に全国平均より高い傾向が見られるが、昨年度と比較すると減少傾向にある。後半数問の無解答率が、全国平均に比べてもかなり高い。普段の学習から、時間配分などを意識した取り組みが必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は、例年に比べ、高位層が少し減少した。エンパワー層は、減少傾向にある。

国語では、低位層の若干の増加が見られ、中間層が増加傾向にある。

算数では、高位層の若干の減少も見られたが、全国平均とほぼ同様に推移している。また、前年度に比べ、低位層の増加が見られた。

〇●取り組み●〇

学力向上に関する取り組み

三島小学校では、『わかるって楽しい 学ぶってすばらしい【伝え合う 聴きあう 分かりあう授業づくり】』をテーマに、どの子にも確かな学力をつけるため、一人ひとりの子どもの立場に立って状況を把握し、適切な指導や支援を以下のような取り組みを通して継続的に行っている。

- **ぐんぐんタイム** …毎週水曜日の朝の学習で、国語のプリントに取り組み、ことばについての学習を深めている。また、週替わりで、リーディングスキル、ビジョントレーニング、プログラミング学習、テーマ作文のプリントに取り組んでいる。
- **放課後算数教室** …学期に1回、全職員が関わり、放課後の補足的な個別支援学習を行うことにより、基礎基本の定着をはかっている。
- **学びんぐ教室** …5、6年生対象に、学年ごとに曜日を決め、学習支援アドバイザーなども関わり、放課後に集まって宿題や算数のプリント学習を行っている。年間を通して、自主学習や家庭学習の習慣化、日頃の学習の復習と定着をはかっている。
- **家庭学習・生活がんばり週間** …年間2回、家庭と学校が連携し、子どもたちの「家庭学習」と「基本的な生活習慣」の定着をめざして二週間行っている。
- **言語活動の充実**…本校では国語科の「言語活動の充実」を図るために以下の点を実践している。
 - ①【つけたい力の明確化】(A)この授業でつけたい力は何か (B)そのためのでだては (C)そのつけたい力を見とる言語活動は何か の、このABCフレーズを子どもたちと毎時間「今日のこの授業はなんのために(なんの力をつけるため言語活動の何をねらっているのか)行っているのか」を明確にしながら授業を行っている。
 - ②【言語活動の充実】授業計画を練る際に、学びから一番遠い位置にいる児童をイメージし、「どの子もとどこぼさずにつけたい力をつけるための言語活動」について考え、実践している。
 - ③【2つの評価 指導に生かす評価・記録に残す評価】従来の単元の最後にテストをして子どもたちの評価(記録に残す評価)とするのではなく、授業の前半、中盤には「指導に生かす評価」をノート・発言から読み取り、翌日の授業計画を修正するなど、「確実につけたい力をねらう」指導を行っている。また、学年で行った授業を廊下等に掲示し、他学年、または保護者・地域の方々にもどのような実践を行っているのかを発信する機会を設けている。